



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年10月30日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
 コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明

TEL 03-6439-3983

四半期報告書提出予定日 2019年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	5,491	0.3	174		268		222	
2019年3月期第2四半期	5,509	6.8	97		83		165	

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 333百万円 (%) 2019年3月期第2四半期 146百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	2.85	
2019年3月期第2四半期	2.12	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	6,603	3,305	37.9	32.09
2019年3月期	6,557	3,003	35.6	29.92

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 2,502百万円 2019年3月期 2,333百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	7.9	450	169.5	510	151.2	340	103.6	4.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	79,147,323 株	2019年3月期	79,147,323 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	1,157,427 株	2019年3月期	1,157,427 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	77,989,896 株	2019年3月期2Q	77,989,896 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ18,151千円(0.3%)減少し、5,491,684千円(前年同期は5,509,836千円)となりました。「コンテンツ」「スタジオ」「技術」が増収となった一方、「放送」「ネットワーク」が減収となり、売上高は前年同期と同水準となりました。

営業利益は、174,887千円(前年同期は97,688千円の損失)となりました。「スタジオ」「ネットワーク営業」が損失を計上した一方、「技術」は好調に推移し、「コンテンツ」は黒字転換いたしました。また、前年同期に発生した連結子会社である(株)釣りビジョンの架空取引被害に関連する費用約150,000千円が無かったこと等が要因となり営業利益は黒字に転じました。

経常利益は、268,323千円(前年同期は83,701千円の損失)となりました。営業利益の計上に加え、持分法による投資利益や受取保険金を計上したこと等が主な要因です。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、222,586千円(前年同期は165,410千円の損失)となりました。子会社における税金費用や非支配株主に帰属する四半期純利益が増加した一方、(株)釣りビジョンにおいて架空取引被害に関する損害賠償請求訴訟の一部について和解が成立し、特別利益として和解金122,700千円を計上したことや、過年度地方税の還付があったこと等が影響し、利益を計上いたしました。

(2019年9月30日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
コンテンツ	クラウドゲームサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドゲーム機「G-cluster」の販売及びクラウドゲームサービスの提供 ・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 ・スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供 	ブロードメディアGC(株) Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルメディアサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチデバイス向けコンテンツ配信サービス「クランクイン!ビデオ」、「クランクイン!コミック」の提供 ・スマートフォンサイト「クランクイン!」等の企画・運営 ・モバイルサイト「ハリウッドチャンネル」等、複数サイトの企画・運営 	ハリウッドチャンネル(株)
	教育サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・イーラーニングシステムを利用した単位制・通信制高校「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の運営 ・独自の教育メソッドによる日本語研修、日本語教師養成講座の運営 	ルネサンス・アカデミー(株)
放送	釣り専門チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 ・映像の受託制作 	(株)釣りビジョン
スタジオ	制作事業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語字幕制作、日本語吹替制作、文字放送字幕制作、番組宣伝制作 	ブロードメディア・スタジオ(株)
	番組販売事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ハリウッド映画等のテレビ局への供給 	
	映画配給事業	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場映画の製作・配給、DVD/Blu-rayの発売、テレビ放映権の販売、VOD権の販売 	

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	デジタルシネマサービス	・ブロードメディア®CDN for theaterの提供、及び上映システム の設計・販売及びレンタル	—
		・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向け VPPサービスの提供	デジタルシネマ倶楽部(株)
	CDNサービス	・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」、「CMオン ラインサービス」、「セキュリティサービス」の提供	ブロードメディア・ テクノロジーズ(株)
	ホスピタリティ・ ネットワーク	・ホテルの客室、会議室へのインターネットサービスの提供、 機器の監視及び保守サービスの提供	
その他ソリューション サービス	・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」 の提供 ・対話型AIプラットフォーム「Passage AI」の提供		
ネットワーク 営業	ブロードバンド回線販売	・「SoftBank 光」サービスの販売 ・「SoftBank Air」サービスの販売 ・「Yahoo! BB」及びその他商材の販売	—
	ISPサービス販売	・「Yahoo! BB」ISPサービスの販売	
	携帯電話サービスの取扱い	・「ソフトバンク・モバイル」の携帯電話サービスや携帯端末の 取り扱い	
全社費用		・ブロードメディア(株)本社の管理業務(人事総務、財務経理、 法務等)及びグループ会社の統括管理	—
その他(注)		・中国における、釣り番組のコンサルティング、釣りポータル サイトの運営、釣り関連商品の販売、釣り大会の運営等	湖南快樂垂釣發展有限公司
		・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組 ソーシャルサービスの運営	ガラポン(株)

(注) 「その他」に含まれる事業は、全て持分法適用関連会社における事業であるため、報告セグメントには含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間における各セグメントの売上高及び営業損益の概況は、以下のとおりです。

①コンテンツ

「コンテンツ」セグメントは、クラウドゲームサービス、デジタルメディアサービス、教育サービスで構成されており、テレビ・PC向けの動画配信、スマホ・タブレット向けのコンテンツ配信及び広域通信制高校に至るまでの広範な事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ319,030千円(28.7%)増加し、1,431,562千円(前年同期は1,112,532千円)、営業損益は、104,376千円の利益(前年同期は40,581千円の損失)となりました。

教育サービスは、入学生徒数が過去最高となったことで、増収増益となりました。デジタルメディアサービスは広告収入やVODサービスが好調に推移したことにより、売上が増加し黒字転換いたしました。また、クラウドゲームサービスは、売上は前年同期と同水準になりましたが、コストの抑制等により営業損失が縮小いたしました。

②放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、並びにBS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ62,751千円(4.3%)減少し、1,389,132千円(前年同期は1,451,883千円)、営業利益は139,534千円(前年同期は75,903千円)となりました。

視聴料収入が減少傾向にあること等が影響し、減収となりましたが、継続して取り組んでいるコスト削減効果により増益となりました。

③スタジオ

「スタジオ」セグメントは、映画やドラマ等の映像作品の調達、日本語字幕・吹替制作から、その作品の配給、販売を行っております。

売上高は、前年同期と比べ56,452千円(5.0%)増加し、1,183,724千円(前年同期は1,127,272千円)、営業損益は53,934千円の損失(前年同期は15,815千円の損失)となりました。

制作事業は受注が増加し、増収増益となりました。一方、番組販売事業はテレビ局向け番組販売が減少したことに加え、原価率が上昇しました。また、映画配給事業は苦戦が続き赤字幅が拡大いたしました。その結果、「スタジオ」セグメントの売上高は増加しましたが、営業損失が拡大いたしました。

④技術

「技術」セグメントは、デジタルシネマサービス、CDN(コンテンツ・デリバリー・ネットワーク)サービス、ホテルの客室、会議室へのインターネットサービス及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ131,364千円(10.4%)増加し、1,396,605千円(前年同期は1,265,240千円)、営業利益は230,111千円(前年同期は212,994千円)となりました。

CDNサービスの既存顧客向けの新たなソリューションやサービスの提供が寄与したこと等により、増収増益となりました。

⑤ネットワーク営業

「ネットワーク営業」セグメントは、ブロードバンド回線(SoftBank 光、SoftBank Air)やISPサービス、携帯電話サービス等の販売代理店として、通信回線販売業者等の事業者を通じて販売活動を行っております。

売上高は、前年同期と比べ462,247千円(83.6%)減少し、90,659千円(前年同期は552,906千円)、営業損益は13,226千円の損失(前年同期は22,044千円の利益)となりました。

ブロードバンド回線の販売の苦戦が続いていることに加え、事業の再構築に時間を要していることから、売上高は大幅に減少し、営業損失を計上することとなりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、番組勘定が減少したことや(株)釣りビジョンにおいて過年度法人税等の還付があった一方、BS放送に係る衛星利用料の前払費用が増加したことや現預金や未収金が増加したこと等により、前期末に比べ65,114千円増加し、5,066,083千円となりました。固定資産は、リース資産の減少等により前期末に比べ19,976千円減少し、1,536,923千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ45,137千円増加し、6,603,006千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、預り金が増加した一方、買掛金や前受金が減少したこと等により、前期末に比べ254,488千円減少し、2,599,632千円となりました。固定負債は、普通社債100,000千円を発行した一方、リース債務が減少したこと等により、前期末に比べ1,866千円減少し、698,224千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ256,354千円減少し、3,297,857千円となりました。

(ハ) 純資産

親会社株主に帰属する四半期純利益222,586千円を計上したこと等により、純資産合計は前期末に比べ301,492千円増加し、3,305,149千円となりました。これにより、自己資本比率は37.9%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて102,445千円増加し、1,971,896千円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、プラス254,385千円(前年同期はマイナス278,549千円)となりました。前受金や仕入債務が減少した一方で、税金等調整前四半期純利益391,023千円を計上したことに加え、たな卸資産の減少や(株)釣りビジョンにおいて過年度法人税等の還付があったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはプラスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得や貸付による支出があったこと等から、マイナス92,816千円(前年同期はマイナス43,736千円)となりました。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、普通社債100,000千円の発行による収入があった一方、リース債務の返済による支出があったこと等から、マイナス62,491千円（前年同期はプラス42,645千円）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2019年9月30日に公表した通期の連結業績予想を以下のとおり修正いたしました。

1. 2020年3月期通期 連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	12,000	350	410	270	3.46
今回修正予想 (B)	12,000	450	510	340	4.36
増減額 (B-A)	—	100	100	70	—
増減率 (%)	—	28.6%	24.4%	25.9%	—
(参考) 前期実績 (2019年3月期)	11,123	167	203	167	2.15

2. 修正理由

<売上高>

セグメント毎ではばらつきがあるものの、全体では前回発表予想と同水準となる見込みです。

<営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益>

上期において、「コンテンツ」セグメントは、教育サービスの入学生徒数が過去最高となり、デジタルメディアサービスの動画配信サービスは好調に推移いたしました。また、「技術」セグメントは、CDNサービスの既存顧客向けのサービスが拡大いたしました。これらの結果、営業利益は期初の想定を上回って推移いたしました。

下期においては、概ね期初の想定どおりに推移することを見込んでおりますが、上期が好調であったことから前回予想を上方修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、同様の理由から上方修正いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,869,451	1,971,896
受取手形及び売掛金	1,100,483	1,151,915
商品及び製品	17,893	17,280
仕掛品	129,689	124,844
原材料及び貯蔵品	12,327	11,457
番組勘定	1,398,369	1,288,355
その他	485,762	507,384
貸倒引当金	△13,006	△7,049
流動資産合計	5,000,969	5,066,083
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	279,823	268,602
その他(純額)	345,025	345,493
有形固定資産合計	624,849	614,095
無形固定資産		
のれん	74,109	66,079
その他	93,680	101,297
無形固定資産合計	167,789	167,376
投資その他の資産		
投資有価証券	365,183	347,004
破産更生債権等	546,962	547,944
その他	493,121	494,991
貸倒引当金	△641,007	△634,489
投資その他の資産合計	764,260	755,451
固定資産合計	1,556,899	1,536,923
資産合計	6,557,869	6,603,006

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	665,406	363,133
短期借入金	150,000	150,000
1年内償還予定の社債	50,000	70,000
未払法人税等	79,020	195,679
賞与引当金	148,174	158,401
その他	1,761,518	1,662,418
流動負債合計	2,854,120	2,599,632
固定負債		
社債	175,000	230,000
退職給付に係る負債	205,360	209,845
リース債務	264,370	211,792
その他	55,360	46,587
固定負債合計	700,091	698,224
負債合計	3,554,212	3,297,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,457,496	3,457,496
資本剰余金	2,846,622	2,846,622
利益剰余金	△3,829,531	△3,638,803
自己株式	△175,253	△175,253
株主資本合計	2,299,332	2,490,060
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,805	△3,812
為替換算調整勘定	37,249	16,332
その他の包括利益累計額合計	34,443	12,519
非支配株主持分	669,880	802,569
純資産合計	3,003,656	3,305,149
負債純資産合計	6,557,869	6,603,006

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	5,509,836	5,491,684
売上原価	3,601,098	3,490,533
売上総利益	1,908,737	2,001,150
販売費及び一般管理費	2,006,426	1,826,263
営業利益又は営業損失(△)	△97,688	174,887
営業外収益		
受取利息	570	582
受取配当金	380	367
貸倒引当金戻入額	54,754	12,450
持分法による投資利益	-	5,235
受取保険金	190	73,110
その他	10,543	24,946
営業外収益合計	66,438	116,693
営業外費用		
支払利息	24,863	17,405
為替差損	16,297	-
持分法による投資損失	1,539	-
その他	9,751	5,851
営業外費用合計	52,452	23,257
経常利益又は経常損失(△)	△83,701	268,323
特別利益		
受取和解金	-	122,700
特別利益合計	-	122,700
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△83,701	391,023
法人税、住民税及び事業税	77,356	156,290
過年度法人税等	△9,664	△110,046
法人税等調整額	△12,821	△10,496
法人税等合計	54,869	35,748
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△138,571	355,275
非支配株主に帰属する四半期純利益	26,839	132,688
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△165,410	222,586

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△138,571	355,275
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,017	△1,007
為替換算調整勘定	270	△1,258
持分法適用会社に対する持分相当額	△6,763	△19,658
その他の包括利益合計	△7,510	△21,924
四半期包括利益	△146,081	333,351
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△172,920	200,662
非支配株主に係る四半期包括利益	26,839	132,688

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△83,701	391,023
減価償却費	142,939	131,225
のれん償却額	7,233	7,159
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,363,562	△12,474
賞与引当金の増減額(△は減少)	27,687	9,667
受取利息及び受取配当金	△950	△950
支払利息	24,863	17,405
持分法による投資損益(△は益)	1,539	△5,235
売上債権の増減額(△は増加)	△55,374	△51,088
たな卸資産の増減額(△は増加)	△295,479	117,326
破産更生債権等の増減額(△は増加)	1,357,385	△982
仕入債務の増減額(△は減少)	198,487	△302,691
未払又は未収消費税等の増減額	21,918	30,557
その他の資産・負債の増減額	△240,592	△257,868
その他	2,948	5,612
小計	△254,656	78,686
利息及び配当金の受取額	459	432
利息の支払額	△24,941	△17,451
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	588	250,717
その他	-	△58,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	△278,549	254,385
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△36,118	△62,176
貸付けによる支出	△20,000	△39,000
貸付金の回収による収入	7,500	7,500
その他	4,881	860
投資活動によるキャッシュ・フロー	△43,736	△92,816
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△60,000	-
社債の発行による収入	250,000	100,000
社債の償還による支出	-	△25,000
リース債務の返済による支出	△147,354	△137,491
財務活動によるキャッシュ・フロー	42,645	△62,491
現金及び現金同等物に係る換算差額	647	△437
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△278,994	98,640
現金及び現金同等物の期首残高	1,616,807	1,869,451
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	3,805
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,337,813	1,971,896

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社費用	合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	計		
売上高	1,112,532	1,451,883	1,127,272	1,265,240	552,906	5,509,836	—	5,509,836
セグメント利益又は損失 (△)	△40,581	75,903	△15,815	212,994	22,044	254,545	△352,234	△97,688

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社費用	合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	計		
売上高	1,431,562	1,389,132	1,183,724	1,396,605	90,659	5,491,684	—	5,491,684
セグメント利益又は損失 (△)	104,376	139,534	△53,934	230,111	△13,226	406,861	△231,974	174,887

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は2019年10月30日の取締役会にて、2020年4月1日を効力発生日として、当社の完全子会社であるブロードメディア・テクノロジーズ株式会社、ブロードメディア・スタジオ株式会社、ハリウッドチャンネル株式会社、ブロードメディアGC株式会社、ルネサンス・アカデミー株式会社、デジタルシネマ倶楽部株式会社の計6社を吸収合併することを決議いたしました。

(1) 当該吸収合併の目的

当社グループではこれまで、迅速な意思決定と機動力を重視し、複数の子会社において事業を行う体制のもと、各社間の連携強化や事業統合により事業を行ってまいりましたが、よりスピード感をもって体制強化を進めるため、100%子会社6社について吸収合併することといたしました。

また、本合併により、管理系業務の重複解消、人材配置の最適化等を推し進め、経営効率を高め、利益率の向上を図ってまいります。

(2) 当該吸収合併の方法、吸収合併に係る割当ての内容その他の吸収合併契約の内容

① 吸収合併の方法

当社を存続会社とする吸収合併方式で、当社の完全子会社6社は解散いたします。

② 吸収合併に係る割当ての内容

100%子会社との合併であり、本合併による株式その他金銭等の割当てはありません。

③ その他の吸収合併契約の内容

取締役会決議日	2019年10月30日
合併契約締結日	2019年10月30日
合併の効力発生日	2020年4月1日(予定)

(3) 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。